



## 院長のお話

### 東日本大震災に思う

3月11日に東日本で起こった災害は、私にとっても最悪の出来事といっても過言ではありません。一言でなかなか表現できませんが、「悔しい」という思いが強く、日々の報道から「自分が何もできていないのでは」との考えが頭をよぎり、仕事への集中をいかに保つかを常に考えながらの毎日でした。その中で、地震の翌日の3月12日にこの春中学を卒業した男の子が病院に来院してくれました。「やっと卒業式を迎えました」と話す母親。15年前、700gで出生した子でした。生後2日目に敗血症(血液の中に細菌が入って、全身の感染症を起こした状態)を起こし、腸閉塞も併発していました。抗生物質の投与に加え、交換輸血(全身の血液を2時間ほどで入れ替える)を行いました。なかなか状態は改善しませんでした。3日間の交換輸血が終了する頃には、正直あきらめかけていましたが、3回の交換輸血後の翌日、お腹のはりが改善し、血液検査も回復してきました。その後は大きな問題もなく経過したお子さんが、はや15歳となり元気な姿を見せてくれました。一人一人のお子さんを必死になって治療することを繰り返し、なんとか一人前の小児科医としての自分を成長させてきたつもりでした。今回の地震はそんなことを完全に否定されたような出来事でした。自然の力の中で、自分の力の弱さを感じました。ひょっとすると天狗になっていただけなのかもしれません。多くのことを考えさせられた中で、小児科医としての原点にもう一度立ち戻り、日々の診療で傲慢なところはないのか、自己満足、自己中心的な治療になっていないかを問いつつ日々の診療をもう一度見つめ直していきたいと思っています。職員一同、毎日毎日を大切に皆様に何ができるかを考え一歩一歩前に進んでいきます。

3月5日に肺炎球菌、ヒブの予防接種が一時中止となり、4月からはまた再開となり混乱されたことと思います。お子さんに予防接種をするわけですので、当然不安を持たれたことでしょう。医療機関としてできるだけ正確な情報を皆様に説明し、細菌性髄膜炎を予防するこれらのワクチン接種を薦めていく必要があると考えています。わからないことがあれば、どのようなことでも質問していただければと思います。

### 肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチンの接種が再開されました

接種後の死亡例が複数報告された為、3月4日から接種が見合わせになっていましたが、専門家の会議で安全性上の懸念はないとされました。

細菌性髄膜炎は怖い病気です。発熱だけで始まることが多く、風邪と初期には見分けがつかず、しかも症状が急激に悪化し、そして死亡したり(約5%)重い後遺症(約25%)が残ります。ヒブ、肺炎球菌はありふれた菌です。小さな子どもは、誰でも感染する可能性があります。細菌性髄膜炎の発症を防ぐには、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン2つのワクチンを接種するしか方法がなく、ほぼ予防することができます。

### 子宮頸がんワクチンが不足しています

ワクチン不足のため、すでに初回接種を済ませた人の2回目以降の接種が優先されています。

現在、高校2年生も助成を受けられるよう期間が延長になっています。新規予約が可能になれば、市町から対象者へ個別に通知があるようですが、今後の報道などにもご注意ください。(7月頃になるようです)

同時接種は問題ありませんが、どうしても不安な方は個別に接種することもできます。安全性が心配という方、前回の接種から期間があいてしまった・・・などなど、心配なことがありましたら、いつでも院長・スタッフにお尋ね下さい。



### 定期ワクチンの接種を忘れずに！！

年長児の年齢になる方	MRワクチン2期
小学6年生の方	二種混合
中学1年生の方	MRワクチン3期
高校3年生の方	MRワクチン4期

## 小児科の上手なかかり方

病院に行くのを嫌がったり、病院で泣いたり暴れたりするお子さんを見ていると、お父さんお母さんもつらい気持ちになると思います。その子をなだめようと焦るお母さん、泣き声にさえぎられてうまく医師と話せずに疑問が残ったまま診察室を後にするお母さん…。小児科でよく見かける光景です。

小児科でスムーズに診療や予防接種を受けるにはどうすればよいのでしょうか。



### 【泣いたり暴れたりさせないための工夫として…】

#### ・かかりつけ医をきめよう

慣れない場所に行けば誰でも不安になってしまいます。何度も行ったことのある病院、何度も会ったことのある医師・スタッフなら不安も少なくなるはずですよ。

#### ・お子さんに前もって話しておく

「今日は先生にお腹やお口をみてもらうよ」などと話しておくことで少しでも不安をとり除いておきます。子どもに言っても分からないなどと思わずに、話しかけてみて下さい。意外にわかってくれることも多いのです。

#### ・脱ぎ着しやすい服装で行くこと

不安な時に服を脱がせようとする、泣き出してしまってお子さんが多いと感じます。脱ぎ着しやすい服装が便利でスムーズに診察できます。

#### ・注射の時には

大人の話がわかるお子さん(2歳以降くらい)であれば、病気になるために注射をすること、ちょっとだけチクッとするけどすぐ終わること、少しの間だけじっとしていることなどを話してあげて下さい。

(「うそをつかないで」大人と信頼できなくなってしまうから…)

子どもたちはお父さん、お母さんが側にいることで安心することができがんばることができます。まず側にいてあげること。がんばって診療や注射を受けることができたなら、そのがんばりをほめてあげて下さい。



### 【もりもとこどもクリニック診療案内】

診療時間 午前 8:30～12:30  
午後 16:00～18:00 (土曜日 17:30)  
健診・予防接種 14:30～16:00 (予約制)  
休診日 木曜日午後・第4土曜日・日祝日  
HPアドレス <http://www.morimoto-kodomo-clinic.com>



### 【赤ちゃん・子どもの症状の見方】

赤ちゃんの様子がいつもと違って何か変と思った時、それが体の具合が悪いのか、ただ虫のいどころが悪いだけなのか、なかなか区別が付きにくいこともあります。そこでおかしいと思ったら、次のポイントをチェックしてみてください。

お母さんの観察力が診断の大きな助けになるのです。



#### ① ミルクや母乳をぜんぜん飲まない、食事を全く口にしない

赤ちゃんは気候や気温のちょっとした変化、寝不足や疲れなどで食欲不振になることがあります。他に症状がなくお菓子や好きなもの、ジュースなどを口にするという程度なら家でしばらく様子を見ていいでしょう。しかし下痢や嘔吐がある、熱があるなどの症状があれば要注意です。

#### ② いつもと違って泣き方が激しく、泣きやまない

抱き上げてあやしたり、外に連れ出すとおさまるようなら大丈夫です。何をしても大泣きが続く、やがてぐったりして泣かなくなるようなら危険信号ですから、すぐに病院に行きましょう。

#### ③ いつもならぐっすりなのに夜中に起き上がって

#### 寝かしつけても寝てくれない

健康な赤ちゃんでも夜目を覚ますことも多いようです。一方で夜中や明け方に何度もグズグズと起きるような場合は病気の始まりのこともあります。

#### ④ 下痢便が出ってしまった 便の色や形がいつもと違う

#### または便秘が3～4日続く

他に症状がなく元気で食欲があればひと安心。でも発熱や嘔吐がある、白い便や血便が出る、ひどい腹痛がある、という時はすぐに受診しましょう。

#### ⑤ いつも元気なのにゴロゴロと寝てばかり

#### ぐったりして起き上がらない

大人でも寝起きや寝不足、疲れている時はゴロゴロしてしまいます。赤ちゃんだって同じです。そのうち元気になってくるようなら様子を見て下さい。しかし高熱が続いたり、飲むことも食べることもできずに脱水症状を起こしている場合は、みるみる具合が悪くなることも考えられます。急いで受診しましょう。

編集後記・・・このたびの震災で多くのかげがえのない大切な人・物が一瞬にして失われてしまいました。

つらく悲しい思いでいっぱいですが、復興に向けて前向きに頑張っている姿に勇気づけられています。普段の何気ない生活・家族とのふれあいがかけがえのないものであることを実感し、1日1日を大切にしていきたいと思えます。